

あうん語法(I)

— 迅速会話のための短縮和語の試み —

村 岡 潔

〔抄 録〕

本稿では、和語(日本語)の短縮化の試みを提案し、諸賢のご批判を仰ぐものです。

日本語の短縮化のアイデアは、聴覚障害者に対する情報保障の一環として発想しました。第I節は、短縮和語の総論です。原則は、視覚障害者のための話し言葉用ですが、完成の暁には、それ以外の人々の日常生活で利用するメールなどの書き言葉でも字数や書き時間の節約に資するものと考えます。例えば、ALS(筋委縮性側索硬化症)の人が、ボードによる言葉を伝える伝達時間も短縮されるでしょう。あるいは、日常のノート速記やツイッターの情報量増加の用途としても期待されます。

第II節では、短縮化の試みである「あうん語法」の基本的な機能とその使用方法につき、例文を示しながら解説し、理論上、あうん語法でのメッセージ時間の短縮可能性について、文章の音節数の違いから示しました。また、日常的に使用されるような日常語のコミュニケーションの機能が果たせる可能性が高いことも示しました。

最後の節では、普通名詞、固有名詞、形容詞、動詞等々の品詞について、和語からあうん語法への変換の仕方について簡潔に提示しました。

あうん語法については、今後、1年間、筆者の周辺で実験的に使用して、第2報ではさらに完成度の高い語法を提示したいと考えています。

キーワード あうん語法、和語、視覚障害者、情報保障、短縮化

I. はじめに～和語の短縮化の目的

本稿では、和語の短縮化の試みを提案し、諸賢のご批判を仰ぐものです。この場合、和語は広義の意味でいう日本語のことです。漢語やその他の外来語に対する日本固有の語「やまとことば」(狭義の和語)に対しては、本稿では「固有和語」として区別します。日本語の短縮化のアイデアは、社会福祉の大学院生とPIC(絵文字)による情報保障の問題を議論していた時に発想しました。PICは「知的障害者」だけでなく高齢者や外国人のために日常生活や非常時

に必要な情報の提供を保障するためのものですが、それが視覚情報のため視覚障害者にはふさわしくありません。そこで聴覚情報で同じようなことができないかと閃いたわけです。

光速(≒30万 km/sec)と音速(海上で約340m/sec)では、約88万倍の差があります。さらに、絵文字の場合は、見てすぐわかるような瞬間的なパターン認識が可能ですが、音波による情報はゆっくりしているばかりか、テープ・レコーダーのテープを聞く際のように一つの文でも秒単位の時間がかかるわけです。それを可能な限り短縮することによって、例えば2秒かかる文章を0.5秒にするだけでも4倍速くなるという計算です。ただし、それを個々の単語・単文で行なうのではなく、短縮語法として文法化(システム化)することで、和語の共通言語としての利用が可能になります。

また、原則は、視覚障害者のための話し言葉ですが、それ以外の人々の日常生活で利用するEメールなどの書き言葉でも字数や書き時間の節約に資するものと考えます。例えば、ALS(筋委縮性側索硬化症)の人が、ボード上の50音を指さしながら言葉を伝えたと伝達時間も短縮されます。短縮によって、さらには、情報量が増大したり、短縮語と自然言語間の通訳ソフトを作成することによって双方向の文章作成も容易になるでしょう。あるいは、一般に速記としての用途も生まれるでしょう。幸い若手に限らず、日本語話者の間では、「明けましておめでとう」を「あけおめ」と言ったり、「エンターテインメント」を「エンタメ」と略したりする傾向が、特に外来語では顕著かと思われます。このように和語を短縮化する傾向は、古くは「ソーイング・マシーン」が「ミシン」となったように従来からの日本語の用法なのです。

視覚情報(信号)は一般的に映像パターンとして解読されますが、あうん語法による聴覚情報としての単語も聴き手の脳にとっては映像のような形で二次元的に再構成されることが期待されます。将来的には、コウモリにおけるエコロケーション(こだま定位)⁽¹⁾のように音波情報から脳内に三次元的な音像を描き世界(周囲や対象物)を認知することも可能になるかもしれません。

II. あうん語法の骨格

あうん語法の骨格は基本的に和語(近代日本語)の文法や単語に依拠しますが、短縮化と簡素化により伝達速度をあげるために他の言語の語法や表現方法を援用することはしばしば行います。特に、中国語の漢字一字の読みが1音節で一つの意味・役割を表意しているように、和語の{あいうえお(五十音)}の単音節で同様のことを行なおうとするのがあうん語法の根本です。ちなみに、「あうん」の語源は「あ」から「ん」までのひらがな・カタカナの表音文字が主体であるということです。

また、語順は英語のように{S(主語)+J(述語:動詞・形容詞・形容動詞等)+M(目的語)}の順が基本となります。もう一つの特徴は、家族同士、友人・同僚同士といった小規模の間で

のコミュニケーションを優先するものであり、マイクロ(微視的)な性格の語法であるということです。したがって、通常のマクロ(巨視的)な空間で使用される国語(テレビ・放送・出版等々)よりも文脈依存性が高い(high context で方言的) 語法であることが前提です。

本稿では、原則、あうん語法の文は改行しながら《 》の二重括弧で示します。例えば、

《あはたん》(3音節)

この文の意味は「私は幸せだった」と同等ですが、4文字(で3音節 A/Ha/Tan)なので「わたしわ、しあわせだった」(11文字：10音節)より、読みで3倍、書き取りで2.5倍速くなる計算です。なお、この文では「あ」が主語、「は」が述語、「たん」は文意が過去の状況であることを示す「情況詞」から構成されます。ここでいう情況詞については、後で詳述しますが、あうん語法における重要な品詞で助動詞やその他の役割を果たす終助詞の一種です。

またあうん語法では、発音は、「あ・は・たん」と平板に言うのではなく、感情をこめながら、主語、述語、情況詞など意味が切れるところを、主に、文中では促音「っ」で、文末では「ん」でしめるように発音します。したがって、この文は「あっ・はっ・たん」(At/Hat/Tan)と読みます。

次に、この文を例に、あうん語法での単語の決め方の原則を示しましょう。

「あ」は、主語人稱代名詞の1人稱単数であり、「あたし」の「あ」であり、英語のIの「a」でもあります。同様に、各人稱代名詞を決めました(表1)。

(表1) 人稱代名詞の一覧表

人稱	単数		複数	
1	あ (A)		あら (Ar)*	
2	ゆ (U)		ゆら (Ur)*	
3	男性	女性	男性	女性
3人間	か(K)	し(X)	から(Kr)*/ぜ(Z)	しら(Xr)*/ぜ(Z)
3モノ	そ(S)		そら(Sr)*	

(注*)「ら」は強調するとき以外は、軽く添えて一音節に近くなるように発音します。「あら」は[ある Ar]のように。この表のローマ字(A,U,K,Xなど)は、メールなどの書き言葉で主語を明示する際に使用します。Xは中国語のようにShと発音します。主語は、文の中心点を示すため、原則、省略しません。

主語の次に述語「は」があります。この場合、常用的で重要な形容詞(形容動詞)なので1音節で示しています。「は」は、英語のhappyからの採用です。あうん語法では、「I am happy.」のbe動詞に相当するものは原則使用しません。「私幸せ」でも意味は十分通じるからです。また、格助詞に相当するものも通常使いません(英語の前置詞に相当するものも極力省きます)。日本語の手話でも、格助詞を使わなくとも十分会話は成り立っていますので。常用的形容詞の例や決め方については、後述します。むろん、身内のマイクロの文脈では、「は」は類似するほかの意味にもなり得ます。通じない場合は、ふつうの和語に言いなおします。

最後尾は情況詞「たん」ですが、動作の完了や過去を示す助動詞「た」に文末を示す「ん」を合成した品詞です。発音は「Tan」のように一音節です。なお、和語の「ん」は、外来語のローマ字表記では「n, m, ng」のどれにも相当しますが、あうん語法では、「ん」は「n」とし、「m」は「む」、「ng」は「んぐ」と区別します。

次に、代表的な情況詞の一覧表を示します(表2)。

(表2) 主な情況詞の一覧表

情況詞	先行する文に対する意味・役割 [英語の類似語]
たん	・文意が完了していることを示す。・過去の内容であることを示す。
らん	・文意を推量していることを示す。[may, might]
みん	・文意が未来のことを示す。[will, going to]
のん	・文意全体を否定することを示す。[not]
かん	・文意が可能であること、あり得ることを示す。[can, could, be able to]
さん	・文意が類似していること(～のようなものだ)を示す。[likely]
ばん	・文意が必要な(～しなければならない、すべきである)ことを示す。[must, should]
いん	・文意が動作の進行形や状態の継続であることを示す。[~ing]
てん	・文意が受け身に転化することを示す
まん	・文意が敬語であることを示す
ろん	・文意が命令形であることを示す
ぼん	・文意が仮定であることを示す(もし～たら、～場合)

次に、動詞に関する例文です。

《かごガコたんらん》(6音節)

これは「かごガコ」に情況詞「たん」と「らん」がついた形です。主語「か」は「彼」で、述語「ご」は動詞の「行く」(goからの採用)で、その後目的語「ガコ」がついています。文意は「彼は学校に行く」です。常用動詞は、このように一字一音節で表します(後述の項参照)。目的語の「ガッコウ(学校)」は、あうん語法の名詞簡略化の法則により、「ガコ」となります。名詞簡略化の法則とは、普通名詞は原則として漢字一字(漢語)は一音節で、固有和語二字分を一字で表すという「半減の決まり」を言います。一般に漢語は和語に組み入れられる際に、「唐 tang」は「とう」、「清 qing」は「しん」という具合に⁽²⁾、その多くが2文字化されているので一音節にもどすことができるという想定です。

その半減のしかたは、例えば、早口で「ガッコウ」と言った場合、耳に残るのは「ガコ」なので、それを採用します。また、和語では「学校に行く」とか「学校へ行く」とかの方向を示す格助詞がつきますが、あうん語法では助詞は省略します。文脈依存のあうん語法ですから、「行く」と「ガッコウ」が出てきたら「学校に行く」が一番、蓋然性が高いからです。また、口語でもよく「ガッコウ・イク」と言い方もします。なお、あうん語法で省略した言葉が通じ

なかった時は、通常の和語をあてはめて「かごがっこう」としても構いません。この「かごガコ」の読み方は、「かっ・ごっ・がっこ」とやはり早口で促音化します。状況詞「たん」で過去を、「らん」で推量をあらわしますから、分全体の意味は「彼は学校に行つたみたい」となります。状況詞が重なる際は、「たんらん」は「たらん」と短縮することも可能です。その場合、発音は「たるらん(tarran)」⁽³⁾を早口でいうわけです。

ちなみに「らん・たん」と状況詞の語順を変えると「学校に行くみたいだった」と意味やニュアンスが変わってしまいます(発音は「らったん」も可)。

次は、補語・目的語が二つある場合の例文です。

《ゆやプゼしむばん》(6音節)

ここでは主語「ゆ」は「君・あなた」の意で、述語「や」は「やる・あげる」の意味です。目的語1は「プゼ」でこの文では「プレゼント」の意味ですが、「プレゼン(テーション)」の意味にもなりえます。目的語2「しむ」は人称代名詞の彼女「し」に目的格を表す「む」が付いた形です。語順からでも目的語であることは想像可能ですが、明示する必要から「しむ」という形にしてあります。かなり文法的に簡略化されたエスペラント(語)でも目的格形には「n」を主格につけて区別していますから⁽⁴⁾、両者の区別が必要だと思われまゝ。ちなみに他の人称代名詞の目的格は、同様に、「あむ・ゆむ・かむ・そむ/あらむ・ゆらむ・からむ・しらむ・ぜむ・そらむ」となります。但し、この場合「しむ」は、「彼女に」の意味ですが、文脈によって「彼女を」「彼女へ」「彼女から」などの意味にもなります。読み方は「しむ Xim(Shim)」で1音節です。最後に状況詞「ばん」がついているので文意には義務の意味が加味されます。

以上から、この文の訳は「君は彼女にプレゼントをやるべきだ」(17音節)となります。この場合、

《ゆやプゼしむばんまん》(8音節)

としますと、敬語化の状況詞が追加されましたので、「あなたは彼女にプレゼントをおやになるべきです」(23音節)と変わります。また、

《ゆやプゼしむばんてん》(8音節)

としますと、受動態化する状況詞が付きましたので、「君は彼女からプレゼントされるべきだ」(18音節)の意味に逆転します。さらに、

《ゆやプゼしむろん》(6音節)

としますと、命令形の状況詞が付きましたので、「君は彼女にプレゼントしなさい！」(15音節)という意味になります。この場合も、他の語法と違い、主語は省略しないようにしましょう。主語が1人称の場合は、例えば、

《あはやプゼしむろん》(7音節)

としますと、「私たち、彼女にプレゼントしましょう。」(17音節)となります。さらに、

《ゆやプゼしむばん、しはらん》(10音節)

としますと、「君が彼女にプレゼントしたら、彼女はうれしい(しあわせ)でしょう」(25音節)という意味になります。

以上、あうん語法の骨格について簡単に紹介しました。

III. 和語からあうん語法への単語の転換法

この節では、和語のあうん語法への転換のやり方について紹介します。

*1) 普通名詞：

原則2音節以内で表現します。ヤマ、カワなどはそのまま。Eメールなどで書く際には区別しやすいように名詞はカタカナで書くことがおすすめです。省略法は、早口で話した場合に耳に残りやすい音を中心に音節を再構成します。例えば、先述の「学校」が「ガコ」であり、「プレゼント」が「プゼ」であったように、「先生」は「セセ」、「宿題」は「シュデ」(シュツデ shukde と読む)となります。また、「金銭」は「キセ」となるが意味をとってより共通性の高いと思われる「カネ」にしてもよいです。四字熟語などは、二文字ずつに分解して短縮化し合成します。例えば「大言壮語」は「タゲソゴ」、「西高東低」は「セコトテ」、「佛教大学」は「ブキョデガ」等比較の変換しやすいです。

原則として、ミクロの範囲での語法なので、最初は齟齬も多いと思われるかもしれませんが、多くの小グループがあうん語法で交流し合う中である方向に定まっていくことが期待されます。また、あうん語法の単語化で意思疎通に妨げが出た場合は、いつでも、本来の和語に戻ることでコミュニケーションは保障されます。

*2) 固有名詞：

一般には、普通名詞と同様に短縮化します。特に、仲間内の愛称・ニックネームや、ロンドン、ニューヨークなどの有名な地名や、キリスト、ダーウィンなど有名人は短縮化されます。これらは例えば、順に、「ロド」「ニュヨ」「キト」「ダイン」などように。

*3) 普通名詞と固有名詞の目的格：

短縮化したものを主格とし、主格+ムで目的格となります。

*4) 形容詞(形容動詞)：

日常的に常用する和語の形容詞では、その原型の最初の1~2音節を採用するか、あるいは、その短縮化された形の最初の1~2文字を採用する。また、場合によっては、英語などの外国語だが、日本でもよく知られている単語の最初の1~2音節を採用する。例えば、「大きい」→「だ」、「小さい」→「こ」、「多い」→「た」、「少ない」→「しょ」、「広い」→「ひ」、「長い」→「な」、「短い」→「み」、「重い」→「おも」、「軽い」→「かる」、「若い(ヤング)」→「やぐ」、「年寄の(オールド)」→「おど」、「きれい」→「きれ」、「汚い」→「きた」、「ハッピー」→「は」、「不幸」→「フコ」

等々。むろん、他のグループが違ふ短縮化を行なうこともあり得ます。意思不通の場合、相互に調整し合います。

次に、名詞を形容する場合がありますが、和語と異なり、短めの時は名詞の前に置きますが、多くの場合、名詞の後に付けます。その場合、前者では、{形容詞+名詞}の形となり、後者では、{名詞+形容詞+さむ(1音節)}の形をとります。例えば、

「若い先生」(6音節)→「やぐせせ」あるいは「せせやぐさむ」(5音節)、

「大きい学校」→「だガコ」あるいは「ガコださむ」

と、なります。「さむ」は沖縄語(琉球語)の形容詞の語尾「さん」の変形です。⁽⁵⁾

人称代名詞の形容も可能です。例えば、「若い彼と年取った私」→「やぐかエおどあ」。

*5) 所有詞・所有形容詞：

{人称代名詞+の+名詞}の形をとります。例えば、「私たちの先生」→「あらのせせ」で、発音は「あらんせせ」に近くなります。

*6) 動詞：

常用動詞は、原則の最初の1～2音節を採用する。それで意思不通なら3音節以上に増やす。

【例】「聞く」→「き」、「飲む」→のむ(nom: 1音節)、「食べる」→たべ(2音節)

「起きる」→おき、「歩く」→あく、「考える」→しゃん(xian)

また、Basic English の16基本動詞⁽⁶⁾も常用動詞とします。

【例】「来る come」→く、「得る get」→げ、「与える give」→や、「行く go」→ご、

「保つ keep」→きい、「させる let」→れ、「つくる make」→めい、「おく put」→お、

「…そうだ seem」→そう、「とる take」→てい、「…である be」→び、「する do」→す、

「もつ have」→も、「言う say」→せ、「みる・見る see」→か、「送る send」→そ

また、名詞あるいは形容詞に「す」を付加すると複合動詞に変化します。

【例】「感動する」→カドす、「幸せだ+する」→ハす(しあわせになる。《げハ》も可。

〔註〕《れカドぜむ》→「彼らを感動させる」、《れハ X む》→「彼女を幸せにする」

【例】慣用句的な表現の動詞化：「宿題をする」→シュデす、「山に登る(登山する)」→トザす

*7) 疑問詞：

疑問文は、通常の文末を抑揚を高めることで示します。語順を変えることはありません。

書く場合は文末に(?)をつけます。疑問詞の「だれ」「なに」「どれ」「いくら」「どこ」

「なぜ」はそのままの形で使用します。また、和語と同じように、文中の訊きたい場所に配置します。文頭に置くことはまれです。

*8) 関係詞：関係代名詞として疑問詞を使うことが可能ですが、あうん語法ではできる限り、

重文や複文をさけていますので、ここでは省略します。ただし、「これ、それ、あれ、どれ」の指示語で前述の文全体を指すことは可能です。それらは単純に「こ、そ、ど」と略

すこともできます。

- *9) 接続詞：主に、順接の「エ」、逆接の「ガ」「マ」、及び、並列の「ワ」「ヤ」があります。
- *10) 副詞・副詞句：原則として「{形容詞(形容動詞)}+リ」で表現され、文中では動詞の後に置かれます。但し、時間を表現する句の場合(日時など)は、文頭に置きます。ちなみに、場所に関しては、{地名+む}で目的語化した形で表現することが可能です。
- *11) 「はい(yes)」は「はい」や「うん」で、「いいえ(no)」は「の」や「のん」で表現します。
- *12) 文章は基本的に単文で構成されます。重文や複文(関係代名詞・副詞を含む)は、単文に分けて表現します。
- *13) 助詞の「から」「まで」「より」は同じ使用法です。
- *14) 感嘆文は、文頭に「すごい!」や「やばい!」を置きます。
- *15) 以上にでてこなかった品詞、例えば季節・時間・数詞などは、原則として和語のまま使用します。

以上、あうん語法入門の基礎的事項について述べてきましたが、今後の1年間に、実践的に使用してみて諸問題を検討し、第二報では、さらに完成度の高い形にしたいと考えています。

〔注〕

- (1) D. R. グリフィン『動物に心があるか—心的体験の進化的連続性—』岩波現代新書、1979年、9-19頁
- (2) ちなみに、漢語で「ん」で終わっている漢字は、一般に中国語でも「n」で終わりますが、漢語で「ん」以外の「う」「い」などで終わっている漢字は中国語では一般に「ng」となる法則があると言います。「明」は「みん」と読みながら「ng」で終わるので例外にみえますが、「めい」と読めば「名」「命」などと同様この法則に当てはまります。
- (3) 発音「たるらん(tarran)」は、「tan-ran」の発音しやすさの都合上、最初のnがr化したもの。さらに早口でいう際は、「tran」と一音節化することもあります。ちなみに和語の「r」はタッピングRとも言い、英語の「r」でも「l」でもなく、上の歯茎のあたりを一瞬叩いて発音します。試しに、「ら・り・る・れ・ろ」と発音してみるとよくわかります。
- (4) 安達信明『ニューエクスプレス エスペラント語』白水社、2008年、34-35頁
- (5) 嘉手川学『旅の指さし会話帳 国内編①沖縄』情報センター出版局、2003年、72-73頁
- (6) OGDEN's Basic English: <http://ogden.basic-english.org/words.html> (アクセス日: 2015年8月15日)

(むらおか きよし 社会福祉学科)

2015年11月16日受理